

第23回大島地区「ふれあい読書フェスタ」

～ 県図書館協会奄美支部 ～

令和6年11月9日(土)に、龍郷町生涯学習センターリゅうがく館において、第23回大島地区「ふれあい読書フェスタ」を開催しました。今回のテーマは、「読書の楽しさを知ろう!」でした。

会場には、壁新聞による各市町村図書館(室)の読書活動状況の発表等が展示されました。



壁新聞による各市町村図書館(室)
の読書活動状況発表

最初に今年度の優良読書会と図書館・公民館図書室職員功労者表彰が行われ、それぞれ、奄美市の「芦花部親子読書会」と龍郷町の「にじいろの花」、そして徳之島の加多美子氏が受賞されました。

次に「給食から親しむ絵本の世界」というテーマで、樗木真幸氏(龍郷町立龍瀬小学校栄養教諭)と、「学校図書館の取組」について、岸本和紀氏(龍郷町学校図書館事務補助員)が実践発表を行いました。



実践発表(1)
「給食から親しむ絵本の世界」
龍郷町立龍瀬小学校
栄養教諭 樗木真幸 氏



実践発表(2)
「学校図書館の取組」
龍郷町学校図書館事務補助員
岸本和紀 氏

そして、別府ちよみ氏とりゅうがく館職員による読み聞かせもありました。



別府 ちよみ 氏

※ 読み聞かせに使用した本

(1) 別府ちよみ氏

- ・『クリスマスのまえのばん』（クレメント・クラーク・ムーア/作 ターシャ・テューダー/絵）
- ・『東北と奄美の昔ばなし』より「鬼と四人の子ら」（島尾敏雄/著 島尾伸三/挿絵）

(2) りゅうがく館職員

- ・ブラックパネルシアター「赤鼻のトナカイ」「ジングルベル」

その後、「わたしの根っこにある本」という演題でミロコマチコ氏（画家・絵本作家）にご講話いただきました。

演題：「わたしの根っこにある本」

講師：ミロコマチコ 氏（画家・絵本作家）

小さい頃は引っ込み思案で、話すのが苦手だった。お父さんは本が好きで、家に絵本がたくさんあり、寝る前に読み聞かせをしてくれていた。大阪弁で面白おかしく話をしてくれて、笑って眠れないこともあった。

15歳の頃、8歳下の弟の付き添いで人形劇を見に行った。『モモ』（ミヒヤエル・エンデ/作 大島 かおり/訳）のお話で人形劇に感動した。その後、本も読んで、涙が出た。最初から絵本作家になろうと思ったわけではなく、大学時代は友人と4人組で人形劇の活動を行っていた。絵本大賞を受賞した後に、生活が忙しくなり、起きたら絵を描き、おなかのすいたときには24時間営業のコンビニに行き、ご飯を食べて寝る。その繰り返しで、絵を描くことを中心とした生活となった。阪神淡路大震災や東日本大震災で、暮らしが止まってしまうことも経験し、これからの生活について考えていた。その後、山形でのイベントで、人とお話を作り出すことを初めて経験した。

2019年に奄美に来る。奄美では、台風などで船が止まっても、自然に合わせて生活することを地域の人から学んでいる。また、地域の人を支えると、自分たちも支えてもらえることを改めて感じる。生活とはそのように成り立っていくものではないかと考える。小さい頃に読んでいた『ウィルキのちきゅう』（クレメント・ハード/作）を何度も読んでいたことを思い出す。

生活の大切さや自然の豊かさを奄美に来て感じている。



各市町村立図書館（室）関係者やPTA、子ども会育成会、親子読書会の方々など47名の参加があり、充実したフェスタとなりました。